

2022

R4

8/24



# 右馬先だま王

朝形  
F9351-  
秋海棠

いつしか 虫の音が 聞こえ どの静かな と、の  
淋し気な つくつくぼうしの 鳴く声 を 聞く ように なり  
ました。 立秋の頃は 朝方お布団を 引き寄せ る ような  
寒さ を 感じ ました が 又 暑さ を 過す 分は お布団  
蹴飛ば して います。 とはいえ すずきの穂が 美しく 秋風  
に 揺ら いて いますし、 稲穂は 重たく 頭を 下げ 始め 音も 紅  
は 実に 伸び 伸びと 空間に 戯れ ています。 大好きな 河原  
で しと 飲み込 む ような 勢い で 覆い 被す 草木の 元気さには  
敬意 を 表し ます。 勇敢に 立ち向かう のは 秋海棠、 大きな 葉と  
可愛らしい ピンク の 花を いっぱい つけて 草を 寄せ 付け ませぬ。  
見習って 明日は あそび と 日々 戦う 私 達が 自然界の  
エネルギー は、 絶大、 葉っぱ が 枯れ け の 時 を 過 して います。

遠い存在 だった コロナ、 新型コロナウィルス 感染症が  
世界的な 大流行「パンデミック」から 地域内 で 流行を  
繰り返す「エンデミック」と 呼ばれる 状態に 移行（たか）  
を 証明 する ように 大鹿村 で 感染者 数が 新聞  
に 掲載 される こと が 多くなり ました。 中川村に 住む 元

長男が 陽性 反応 が 出た その 家族 が 一緒に 住む 両親 に 移して は  
いけない と 大鹿の 一軒家 に 避難 して 来 ました。 むろん 元（8/24で  
39才）と 濃厚 接触者 という こと で 隔離。 最初 の 二 日間 は 静かな  
もので した が 三 日間 光の 声 キャンキーン という 元気 な 声 が 聞  
えて 来て ホッと して した。 鮎釣りに、 きりきり と 取りに 毎日 疲ら  
動いて いた 長男 元と ますは 一休み、 しつかり 静養 して 欲しい  
と 思っ ます。 次男 充の 店 で の 作業 を 余儀 なく する 羽目 と なり  
なん と も ない 息子は 鮎釣りに 入り込み て 十分 楽しめ た よう です。

正介さんは お腹が 少し 出過ぎ だ ように 思っ ます が よく 食し  
介護 も よく 出来 て 申し分 あり ませぬ。 無線 の 交信 に よる ストレス  
解消 が 出来 て いる よう です。 又 美と 元気に ヨガ 指導、 ちんちん  
の 畑の お手伝い、 野菜 便の 発送 など 汗を 流 して います

ロシアの ウクライナ 侵攻 から 8月 24日 で 半年 経ちま  
す。 高森町に 避難 して 来 ている 9名 の 方たち に とっては 長い 日々  
あり ませぬ。 8月 に 入って キッチンカー を 使い ヒロツキ など  
ウクライナ 料理 の 販売 を 始め 週3回 の 学習 で 覚え た 日本語  
で 接客 し 母国 に 帰り たい という 胸の内 を 秘め 必死 で 生活 されて  
いら しゃい ます。 先の 見え ない 避難 生活 の 中 で 願っ たい は 1つ  
ウクライナ が 戦争 に 勝利 し 平和 が 戻る 日が 1日 も 早く  
来 ます ように、 そして 1日 も 早く 帰国 出来 ます ように、

共に 祈り たい と 思っ ます